

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(中国言語文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

# 目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E1501	中国言語文化	現代中国事情 A	及川 淳子	前期	月	3時限	3
E1502	中国言語文化	現代中国事情 B	及川 淳子	後期	月	3時限	6
E1503	中国言語文化	中国文学概論 A	材木谷 敦	前期	木	1時限	9
E1504	中国言語文化	中国文学概論 B	材木谷 敦	後期	木	1時限	11
E1505	中国言語文化	中国語学概論 A	石村 広	前期	金	4時限	13
E1506	中国言語文化	中国語学概論 B	石村 広	後期	金	4時限	15
E1507	中国言語文化	中国文化概論 A	榎本 泰子	前期	月	5時限	17
E1508	中国言語文化	中国文化概論 B	榎本 泰子	後期	月	5時限	19
E1509	中国言語文化	現代中国文学 A	飯塚 容	前期	火	1時限	21
E1510	中国言語文化	現代中国文学 B	飯塚 容	後期	火	1時限	23
E1511	中国言語文化	中国文学講義 (1) A	千田 大介	前期	火	2時限	25
E1512	中国言語文化	中国文学講義 (1) B	千田 大介	後期	火	2時限	27
E1513	中国言語文化	中国文学講義 (2) A	明田川 聡士	前期	月	2時限	29
E1514	中国言語文化	中国文学講義 (2) B	明田川 聡士	後期	月	2時限	32
E1515	中国言語文化	中国語学講義 (1) A	遠藤 雅裕	前期	木	4時限	35
E1516	中国言語文化	中国語学講義 (1) B	遠藤 雅裕	後期	木	4時限	37
E1517	中国言語文化	中国語学講義 (2) A	荒木 典子	前期	金	3時限	39
E1518	中国言語文化	中国語学講義 (2) B	荒木 典子	後期	金	3時限	41
E1519	中国言語文化	中国文化講義 (1) A	川野 明正	前期	金	2時限	43
E1520	中国言語文化	中国文化講義 (1) B	川野 明正	後期	金	2時限	46
E1521	中国言語文化	中国文化講義 (2) A	陸 偉栄	前期	金	3時限	49
E1522	中国言語文化	中国文化講義 (2) B	陸 偉栄	後期	金	3時限	51
E1523	中国言語文化	中国文化講義 (3) A	麻生 晴一郎	前期	木	3時限	54
E1524	中国言語文化	中国文化講義 (3) B	麻生 晴一郎	後期	木	3時限	57

科目名： 現代中国事情A

担当教員： 及川 淳子

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-GC1-E201

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:07 更新者： AA1829

更新日時： 2023-01-09 15:58:12

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

「現代中国事情A」では、現代の中国に関する基礎的な知識を学びます。中国の国家体制、政治制度、社会制度、メディア事情、日中関係など、各回の授業で具体的なテーマを取り上げ、基本事項を概説し、ドキュメンタリーやニュース映像などを視聴します。また、中国をとりまく様々な課題について、その歴史的背景や文化的要因を考察し、中国社会の諸事情について理解を深めます。

### 科目目的

中国に関する基礎的な知識を学修します。変容する中国を立体的に理解し、専門的な知識と自らの思考によって中国に対する関心を持続できるような学修を目的とします。

### 到達目標

- 履修生は、中国に対する基本的な知識を修得すると同時に、以下の能力やスキルのレベルアップを到達目標とします。具体的には、以下のとおりです。
1. 図書館データベースの活用方法
  2. 現代中国に関する資料収集の基本スキル
  3. 資料の批判的分析能力
  4. 課題発見能力
  5. 課題への取り組みを通して、自分の意見を表明する積極性と論理性を高める

### 授業計画と内容

- |      |                   |
|------|-------------------|
| 第1週  | ガイダンス             |
| 第2週  | 現代中国の基礎知識         |
| 第3週  | 現代中国の政治体制         |
| 第4週  | 現代中国の社会構造         |
| 第5週  | メディア事情            |
| 第6週  | インターネット事情         |
| 第7週  | 天安門事件と社会変容        |
| 第8週  | 現代中国における歴史認識、思想教育 |
| 第9週  | 少数民族地域：チベット事情     |
| 第10週 | 少数民族地域：ウイグル事情     |
| 第11週 | 現代中国の対外政策、「一带一路」  |
| 第12週 | 香港事情              |
| 第13週 | 台湾事情、兩岸関係         |
| 第14週 | 日中関係、総括・まとめ       |

・授業内容は、中国の最新情勢などに応じて変更する場合があります。

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学修の効果がどの程度示されているか
平常点	70% 到達度確認の課題への取り組みが充分かどうか
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回の授業で提示する課題への取り組みを「平常点」として重視します。学期末レポートを提出しない場合は不合格とします。積み重ねの学修を意識してください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- 【教科書】 プリント教材を配布します。
- 【参考書】
  - ・藤野彰ほか編著『現代中国を知るための52章【第6版】』明石書店、2018年
  - ・川島 真、小嶋華津子『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年
  - ・川島 真 編著『ようこそ中華世界へ』昭和堂、2022年
- 【備考】 各回のテーマに合わせた参考書は、随時レジュメで紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

1. 「現代中国事情A」は前期科目ですが、後期「現代中国事情B」の履修を推奨します。

2. 中国言語文化専攻の学生は、各自の中国語の学修状況にあわせて、中国語の資料収集や読書にも挑戦してください。
3. 文学部他専攻、他学部生の履修も歓迎します。中国語の能力は問いませんが、第二外国語として履修することを推奨します。
4. 授業に関する質問は、「manaba掲示版」に記入してください。  
個別に相談がある場合は、「manaba個別指導コレクション」を利用してください。
5. 教員メールアドレス：及川淳子 ojunko001m@g.chuo-u.ac.jp

**参考URL**

**備考**

---

**科目名： 現代中国事情B****担当教員： 及川 淳子**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 月3

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-GC1-E202

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:08 更新者：AA1829

更新日時：2023-01-09 16:06:52

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「現代中国事情B」では、現代の中国における具体的な課題について、SDGs (Sustainable Development Goals) の視点から学びます。国連が定めた「持続可能な開発目標」を参照しながら、中国ではどのような課題があり、どのような取り組みが行われているか、様々な視点から考察します。

具体的には、経済格差と貧困問題、教育問題、環境問題、NGOとボランティア、人権問題、中国におけるLGBTQなど、各回の授業で具体的なテーマを取り上げ、基本事項を概説し、ドキュメンタリーやニュース映像などを視聴します。中国における様々な課題について、その歴史的背景や文化的要因を考察し、中国社会の諸事情について理解を深めます。

**科目目的**

中国に関する基礎的な知識を学修します。変容する中国を立体的に理解し、専門的な知識と自らの思考によって中国に対する関心を持続できるような学修を目的とします。

**到達目標**

履修生は、中国に対する基本的な知識を修得すると同時に、以下の能力やスキルのレベルアップを到達目標とします。具体的には、以下のとおりです。

1. 図書館データベースの活用方法
2. 現代中国に関する資料収集の基本スキル
3. 資料の批判的分析能力
4. 課題発見能力
5. 課題への取り組みを通して、自分の意見を表明する積極性と論理性を高める

**授業計画と内容**

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 第1週  | ガイダンス              |
| 第2週  | SDGsの視点、中国の人口問題    |
| 第3週  | 中国の貧困問題            |
| 第4週  | 中国の食糧事情、食品の安全、衛生問題 |
| 第5週  | 中国の教育事情            |
| 第6週  | 中国におけるLGBTQ①       |
| 第7週  | 中国におけるLGBTQ②       |
| 第8週  | 中国における労働問題、若者の意識   |
| 第9週  | 中国における大規模災害と復興事業   |
| 第10週 | 中国における環境問題         |
| 第11週 | 日中の相互協力            |
| 第12週 | 中国におけるコロナ政策        |
| 第13週 | 現代中国とSDGs          |
| 第14週 | 総括・まとめ             |

・授業内容は、中国の最新情勢などに応じて変更する場合があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学修の効果がどの程度示されているか
平常点	70% 到達度確認の課題への取り組みが充分かどうか
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回の授業で提示する課題への取り組みを「平常点」として重視します。学期末レポートを提出しない場合は不合格とします。積み重ねの学修を意識してください。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【教科書】 プリント教材を配布します。

【参考書】

1. 現代中国に関する概説書
  - ・藤野彰ほか編著『現代中国を知るための52章【第6版】』明石書店、2018年
  - ・近藤大介『未来の中国年表 超高齢大国でこれから起こること』講談社現代新書、2018年
  - ・川島 真、小嶋華津子『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年
  - ・川島 真 編著『ようこそ中華世界へ』昭和堂、2022年
2. SDGsに関する概説書
  - ・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
  - ・イヴェット・ヴェレ、ポール・アルヌー著、蔵持不三也訳『地図とデータで見るSDGsの世界ハンドブック』原書房、2020年

【備考】各回のテーマに合わせた参考書は、随時レジユメで紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

1. 「現代中国事情B」は後期科目ですが、前期「現代中国事情A」もあわせて履修することを推奨します。
2. 中国言語文化専攻の学生は、各自の中国語の学修状況にあわせて、中国語の資料収集や読書にも挑戦してください。
3. 文学部他専攻、他学部生の履修も歓迎します。中国語の能力は問いませんが、第二外国語として履修することを推奨します。
4. 授業に関する質問は、「manaba揭示版」に記入してください。  
個別に相談がある場合は、「manaba個別指導コレクション」を利用してください。
5. 教員メールアドレス：及川淳子 ojunko001m@g.chuo-u.ac.jp

### 参考URL

### 備考

---



科目名: 中国文学概論A

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

担当教員: 材木谷 敦

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-E203

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:08 更新者: AA9823

更新日時: 2023-01-09 01:34:13

**履修条件・関連科目等**

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)**

**授業の概要**

中国古典文学に関心を持つとしようとする場合に知っておくべき事柄と考えかたを説明します。

**科目目的**

中国言語文化専攻のポリシーに言う中国の人々の暮らし・考え方の背景となる歴史や文化についての正確な知識の獲得のため、中国古典文学に関する導入科目として、中国古典文学史と中国古典文学研究のありかたを理解してもらい、以て文学部のディプロマ・ポリシーに言う専門的学識、幅広い教養、複眼的思考を培うこと。

**到達目標**

学生が中国古典文学や古い時代の中国について理解を深めること。

**授業計画と内容**

1. この科目についての説明
2. 中国古典文学をめぐる紋切型
3. 「漢文」について
4. 「中国」について
5. 「古典」について
6. 「文学」について
7. 古代中国基礎知識：歴史区分など
8. 古代中国基礎知識：地理など
9. 古代中国基礎知識：暦法など
10. 文学史の意味
11. 中国古典文学史の流れ：時代
12. 中国古典文学史の流れ：ジャンル
13. 中国古典文学史の流れ：人物
14. 総括・まとめ：中国古典文学についての考えかた

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の授業内容を復習すること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	80%	学習の効果がどの程度示されているか。
レポート	0%	
平常点	20%	小テストなどの結果。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

期末試験を受けなかった場合、成績評価の対象から外します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストとして、授業教室またはmanabaで資料を配付します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

履修者には訳読を要求しないので、いわゆる「中国語」やいわゆる「漢文」についての知識がなくてもかまいません。  
連絡方法についてはmanabaのコースニュースを参照してください。

### 参考URL

### 備考

科目名: 中国文学概論B

担当教員: 材木谷 敦

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-E204

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:08 更新者: AA9823

更新日時: 2023-01-09 01:34:51

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

中国古典文学について、いくつかの話題に沿い、具体的な作品に即して、なるべく多くの時代・ジャンルを取り上げ、広く浅く講義します。  
中国古典文学についての理解が、現代中国の古層としての古い時代の中国についての理解につながるよう、必要に応じて、文学作品以外の文献も取り上げます。

### 科目目的

中国言語文化専攻のポリシーに言う中国の人々の暮らし・考え方の背景となる歴史や文化についての正確な知識の獲得のため、中国古典文学に関する導入科目として、中国古典文学史と中国古典文学研究のありかたを理解してもらい、以て文学部のディプロマ・ポリシーに言う専門的学識、幅広い教養、複眼的思考を培うこと。

### 到達目標

学生が中国古典文学や古い時代の中国について理解を深めること。

### 授業計画と内容

1. この科目についての説明
2. 中国古典詩歌の形式
3. 平仄と古典詩歌
4. 平仄を見分ける
5. 季節認識の原型
6. 季節認識と表現
7. 距離に対する認識
8. 距離をめぐる表現
9. 怪異・俗信の問題
10. 怪異・俗信的言説
11. 科挙前史
12. 科挙について
13. 文学革命
14. 総括・まとめ: 中国古典文学とその背景

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業内容を復習すること。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	80%	学習の効果がどの程度示されているか。
レポート	0%	
平常点	20%	小テストなどの結果。

### 成績評価の方法・基準(備考)

期末試験を受けなかった場合、成績評価の対象から外します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストとして、授業教室またはmanabaで資料を配付します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

連絡方法についてはmanabaのコースニュースを参照してください。  
「中国文学概論A」を履修していない場合、難解かもしれません。  
ごく簡単な「中国語」や「漢文」の読解を課すことがあります。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中国語学概論A****担当教員： 石村 広**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 金4

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-LG1-E205

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:08 更新者：AA1138

更新日時：2023-01-09 20:36:34

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「中国語学」とは、中国語の四技能（読む・話す・書く・聴く）の習得を目指す方向とは異なり、中国語（漢語）がどのような構造を持ち、どのような歴史を辿ってきたかを研究する学問である。本授業では、中国語研究を行うための基礎力を養う観点から、「中国語はどのような言語か」という問題を中心に講義を行う。前期は、これまでの主要な研究成果を紹介しながら、共通語の基礎である北京官話と南方諸方言との関係にも目を配り、世界諸言語からみた中国語の類型学的位置づけを試みる。

**科目目的**

一般言語学の基礎に基づきながら、中国語学の入門的な知識を習得することを目的とする。ことばの分析と研究に欠かせない重要な概念を取り上げ、中国語の一般性と個別性について理解を深める。

**到達目標**

中国語の分析に必要な基礎知識や分析方法を身につける。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス： 授業履修上の留意点について説明の後、学生による考察を各自記入する。
2. 系譜的分類と語族（1）： 基本的な考え方
3. 系譜的分類と語族（2）： 漢語系言語について
4. 系譜的分類と語族（3）： 中国少数民族の言語について
5. 漢語の「規範化」について： ピンインの成立過程を中心に
6. 共通語と方言（1）： 共通語の定義について
7. 共通語と方言（2）： 共通語と北京語の違い
8. 共通語と方言（3）： 南方諸方言の分布とその特徴
9. 形態的類型論（1）： 学問的背景
10. 形態的類型論（2）： 屈折語とその統語的特徴
11. 形態的類型論（3）： 膠着語とその統語的特徴
12. 形態的類型論（4）： 孤立語とその統語的特徴
13. 文法論と語用論： 「主語」優位言語と「主題」優位言語
14. 学習内容の確認： 「中国語」とはどういう言語か

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	60% 6割以上の得点を合格の目安とする。
レポート	0%
平常点	30% 出席回数、授業に対するコメント等の提出物に基づいて判断する。

その他 10% 課題（宿題）等の提出物に基づいて判断する。

### 成績評価の方法・基準(備考)

学期末の確認試験やレポートなどの成績に平常点を勘案して、総合的に評価する。授業に取り組む姿勢を重視する。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- <テキスト>特に指定しない。プリントを配布する。
- <参考文献>
- ・北京大学中文系編『現代中国語総説』三省堂，2004年
- ・朱徳熙著『文法講義』白帝社，1995年
- ・S. R. ラムゼイ著『中国の諸言語—歴史と現況—』大修館書店，1990年
- ・太田辰夫著『中国語歴史文法』江南書院，1958年
- ・橋本萬太郎『漢民族と中国社会』，山川出版社，1983年初版

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業参加を充実させるために、現地渡航経験を重ねていくことも中国語学研究のみならず、中国語本体のブラッシュアップにも寄与するので意欲的に取り組まれることをおすすめしたい。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中国語学概論B****担当教員： 石村 広**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 金4

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-LG1-E206

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:08 更新者：AA1138

更新日時：2023-01-09 20:38:09

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国語学概論Aに引き続き、授業を展開していく。「中国語学」とは、中国語の四技能（読む・話す・書く・聴く）の習得を目指す方向とは異なり、中国語（漢語）がどのような構造を持ち、どのような歴史を辿ってきたかを研究する学問である。本授業では、中国語研究を行うための基礎力を養う観点から、「中国語はどんな言語か」という問題を中心に講義を行う。後期も主として言語類型論の研究成果を紹介しつつ、中国語の仕組みと特徴について講義する。中国語を観察・記述するための理論的な道具立てを一通り解説することに眼目を置く。

**科目目的**

一般言語学の基礎に基づきながら、中国語学の入門的な知識を習得することを目的とする。ことばの分析と研究に欠かせない重要な概念を取り上げ、中国語の一般性と個別性について理解を深める。

**到達目標**

中国語の分析に必要な基礎知識や分析方法を身につける。

**授業計画と内容**

1. 語順類型論（1）：学問的背景
2. 語順類型論（2）：主要部先行型と主要部後続型
3. 語順類型論（3）：中国語の場合
4. 形態素・語・句（1）：基本的な考え方
5. 形態素・語・句（2）：形態素・語
6. 形態素・語・句（3）：句
7. 品詞分類の問題点（1）：中国語の品詞
8. 品詞分類の問題点（2）：分類の問題点
9. 品詞分類の問題点（3）：他言語との比較
10. 古代語と現代語の比較（1）：介詞構造の語順
11. 古代語と現代語の比較（2）：動目構造の語順
12. 古代語と現代語の比較（3）：補語の発達
13. 古代語と現代語の比較（4）：処置文の発達
14. 学習内容の確認：中国語の統語的特徴

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	60% 6割以上の得点を合格の目安とする。
レポート	0%
平常点	30% 出席回数、授業に対するコメント等の提出物に基づいて判断する。

その他 10% 課題（宿題）等の提出物に基づいて判断する。

### 成績評価の方法・基準(備考)

学期末の確認試験やレポートなどの成績に平常点を勘案して、総合的に評価する。授業に取り組む姿勢を重視する。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- <テキスト>特に指定しない。プリントを配布する。
- <参考文献>
  - ・北京大学中文系編『現代中国語総説』三省堂，2004年
  - ・朱徳熙著『文法講義』白帝社，1995年
  - ・S. R. ラムゼイ著『中国の諸言語—歴史と現況—』大修館書店，1990年
  - ・太田辰夫著『中国語歴史文法』江南書院，1958年
  - ・橋本萬太郎『漢民族と中国社会』山川出版社，1983年初版

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業参加を充実させるために、現地渡航経験を重ねていくことも中国語学研究のみならず、中国語本体のブラッシュアップにも寄与するので意欲的に取り組まれることをおすすめしたい。

### 参考URL

### 備考



**科目名： 中国文化概論A****担当教員： 榎本 泰子**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-GC1-E207

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:09 更新者：AA0441

更新日時：2022-12-17 08:57:29

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国の歴史の大まかな流れをつかんだ後、具体的な事象や作品、歴史的イベントや問題点など、文化とそれを取り巻く状況をトピックごとに考察していきます。文献・映像・音声など、各種の資料を題材として、中国文化を多様な角度から見る姿勢を養います。

**科目目的**

中国の文化や社会を理解し、言語・文学・芸術などを深く研究していくための基本的知識を身に付けます。近代以降が主となりますが、近代以前の文化について言及することもありますし、日本や朝鮮半島、欧米との関連性にも注目します。

**到達目標**

中国を理解するための縦軸としての歴史と、横軸としての地理的特性を知ること为目标とします。具体的には、世界の動きの中で中国がどのように近代化を推し進め、伝統的な思想・文化がどのように変化してきたかについて、正確な知識を身に付けることを目指します。

**授業計画と内容**

- 1 ガイダンス・現代中国の概況
- 2 中国の歴史①前近代
- 3 中国の歴史②近現代
- 4 世界の中の中国と日本①前近代
- 5 世界の中の中国と日本②近代
- 6 世界の中の中国と日本③現代
- 7 映像作品から考える中国の文化①歴史の描き方
- 8 映像作品から考える中国の文化②「中華」の意識
- 9 映像作品から考える中国の文化③対外関係
- 10 中華民国期の文化：近代文化の形成と日中戦争
- 11 中華人民共和国建国期の文化：毛沢東「文芸講話」の影響
- 12 改革開放政策以後の文化：商業化とグローバル化
- 13 今日の東アジアの文化的動向：「韓流」と「華流」
- 14 総括とまとめ

注：以上は、科目の目的に照らして、このようなトピックを中心に授業を進める可能性があるという「見込み」を示したものです。履修者の学習状況や、中国の社会・文化の動向に応じて、授業の進め方が変わる場合があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	40%	中国の歴史・文化・社会に関する基礎知識が身についているかを確認する試験です。
レポート	40%	テキストの内容や授業で解説された事柄を正確に理解し、課題に応じて適切に表現できているかを評価の基準とします。
平常点	0%	
その他	20%	授業時の小レポート等に誠実に取り組んでいるかを重視します。

### 成績評価の方法・基準(備考)

レポートを提出した者を、試験を受験する有資格者と見なします(試験を受験しただけでは、成績評価の対象になりません。)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：中国モダニズム研究会『中国現代文化14講』関西学院大学出版会、2014年。  
履修者の学習状況にしたがって、他にテキストや参考文献を指定する可能性があります。詳細については授業時に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中国文化概論B****担当教員： 榎本 泰子**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-GC1-E208

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:09 更新者：AA0441

更新日時：2022-12-17 08:58:11

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国文化概論Aで学んだ中国の歴史の大まかな流れを復習しつつ、各時代の状況や、文化界の動向をさらに深く理解するための授業です。中国の地理や民族、地域や都市ごとの特徴など、文化的事象の背景となる事柄についても学んでいきます。

**科目目的**

中国の文化や社会を理解し、言語・文学・芸術などを深く研究していくための基本的知識を身に付けます。近代以降が主となりますが、近代以前の文化について言及することもありますし、日本や朝鮮半島、欧米との関連性にも注目します。

**到達目標**

中国を理解するための縦軸としての歴史と、横軸としての地理的特性を知ることを目標とします。具体的には、世界の動きの中で中国がどのように近代化を推し進め、伝統的な思想・文化がどのように変化してきたかについて、正確な知識を身に付けることを目指します。

**授業計画と内容**

- 1 ガイダンス・現代中国の概況
- 2 中国の歴史と多様な民族文化①北方
- 3 中国の歴史と多様な民族文化②南方
- 4 都市文化と農村文化
- 5 都市と近代①上海租界の形成
- 6 都市と近代②上海モダン
- 7 都市と近代③メディアと戦争
- 8 中国の戯曲と音楽
- 9 映像作品から考える中国の文化①伝統と近代化
- 10 映像作品から考える中国の文化②文化・芸能の社会的地位
- 11 映像作品から考える中国の文化③文化と政治
- 12 中国の映画①歴史と作品
- 13 中国の映画②グローバル化とソフトパワー
- 14 総括・まとめ

注：以上は、科目の目的に照らして、このようなトピックを中心に授業を進める可能性があるという「見込み」を示したものです。履修者の学習状況や、中国の社会・文化の動向に応じて、授業の進め方が変わる場合があります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

中国の社会や文化について幅広い興味関心を養うために、新聞・テレビ・インターネットなどを通じて常に情報を収集するよう心がけてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 中国の歴史・文化・社会に関する基礎知識が身につけているかを確認する試験です。

レポート	40%	テキストの内容や授業で解説された事柄を正確に理解し、課題に応じて適切に表現できているかを評価の基準とします。
平常点	0%	
その他	20%	授業時の小レポート等に誠実に取り組んでいるかを重視します。

### 成績評価の方法・基準(備考)

レポートを提出した者を、試験を受験する有資格者と見なします（試験を受験しただけでは、成績評価の対象になりません。）

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：中国モダニズム研究会『中国現代文化14講』関西学院大学出版会、2014年。  
履修者の学習状況にしたがって、他にテキストや参考文献を指定する可能性があります。詳細については授業時に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 現代中国文学A

担当教員： 飯塚 容

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-LT1-E209

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:09 更新者： AA8211

更新日時： 2022-12-17 15:51:17

#### 履修条件・関連科目等

後期の「現代中国文学B」と合わせて履修することが望ましい。

#### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

#### 授業で使用する言語(その他の言語名)

#### 授業の概要

20世紀初めの文学革命から中華人民共和国成立前後の人民文学の誕生までを扱います。毎回の授業で重要作家を一人ずつ取り上げる予定です。その作家の特色がわかる短篇小说を読み、あらすじと感想をまとめてもらいます。

#### 科目目的

中国現代文学の主要な作家とその作品を知ることが目的としています。

#### 到達目標

文学作品を鑑賞し分析する力、その結果をまとめて文章化する力を身につけることを到達目標としています。

#### 授業計画と内容

- 1 導入、および授業についての説明
- 2 魯迅とその作品、閲読・ショートレポート
- 3 冰心とその作品、閲読・ショートレポート
- 4 郭沫若とその作品、閲読・ショートレポート
- 5 郁達夫とその作品、閲読・ショートレポート
- 6 沈從文とその作品、閲読・ショートレポート
- 7 茅盾とその作品、閲読・ショートレポート
- 8 巴金とその作品、閲読・ショートレポート
- 9 老舎とその作品、閲読・ショートレポート
- 10 蕭紅とその作品、閲読・ショートレポート
- 11 丁玲とその作品、閲読・ショートレポート
- 12 張愛玲とその作品、閲読・ショートレポート
- 13 趙樹理とその作品、閲読・ショートレポート
- 14 まとめ、期末レポートについて

#### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

#### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |               |
|------|---------------|
| 中間試験 | 0%            |
| 期末試験 | 0%            |
| レポート | 50% 期末レポートの内容 |

平常点 50% 毎回のショートレポートの提出状況と内容  
その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

プリントを配付します。  
参考文献については、授業の中でそのつど紹介します。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考

科目名：現代中国文学B

担当教員：飯塚 容

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：火1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LT1-E210

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:09 更新者：AA8211

更新日時：2022-12-17 15:55:30

#### 履修条件・関連科目等

前期の「現代中国文学A」と合わせて履修することが望ましい。

#### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

#### 授業で使用する言語(その他の言語名)

#### 授業の概要

文化大革命終結後、改革開放から現在に至るまでの時期を扱います。  
毎回の授業で重要作家を一人ずつ取り上げる予定です。  
その作家の特色がわかる短篇小说を読み、あらすじと感想をまとめてもらいます。

#### 科目目的

同時代の中国文学の主要な作家とその作品を知ることが目的としています。

#### 到達目標

文学作品を鑑賞し分析する力、その結果をまとめて文章化する力を身につけることを到達目標としています。

#### 授業計画と内容

- 1 導入、および授業についての説明
- 2 高行健とその作品、閲読・ショートレポート
- 3 莫言とその作品、閲読・ショートレポート
- 4 残雪とその作品、閲読・ショートレポート
- 5 余華とその作品、閲読・ショートレポート
- 6 蘇童とその作品、閲読・ショートレポート
- 7 阿来とその作品、閲読・ショートレポート
- 8 王安憶とその作品、閲読・ショートレポート
- 9 鉄凝とその作品、閲読・ショートレポート
- 10 畢飛宇とその作品、閲読・ショートレポート
- 11 史鉄生とその作品、閲読・ショートレポート
- 12 閻連科とその作品、閲読・ショートレポート
- 13 郝景芳とその作品、閲読・ショートレポート
- 14 まとめ、期末レポートについて

#### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

#### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末レポートの内容
平常点	50% 毎回のショートレポートの提出状況と内容
その他	0%

**成績評価の方法・基準(備考)**

**課題や試験のフィードバック方法**

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

**課題や試験のフィードバック方法(その他)**

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

**アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)**

**授業におけるICTの活用方法**

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

**授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)**

**実務経験のある教員による授業**

- ✓ はい  
いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

**実務経験に関連する授業内容**

**テキスト・参考文献等**

プリントを配付します。  
参考文献については、授業の中でそのつど紹介します。

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

---



科目名: 中国文学講義(1)A

担当教員: 千田 大介

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 火2

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-LT3-E401

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:14 更新者: XEC301

更新日時: 2023-01-08 15:42:40

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国の伝統演劇と地域文化

本講義では、中国の伝統演劇と地域文化の特色、形成過程などを取り扱う。

中国では各地でさまざまな伝統演劇が行われている。それらは、いずれも歌を中心に舞台が進行するオペラ形式であり、視覚的表現は似かよっているものの、節回しや方言の使用といった違いによって分類され、北京の京劇、江南の崑曲、陝西の秦腔、四川の川劇を始め、全国で250種以上が知られている。

本講義では、まず中国の伝統演劇の表現上の特色となっている、役まわり、扮装、虚実の表現などについて、具体的な映像資料を交えて解説する。その上で、各地の代表的な伝統演劇を取り上げ、地域性に留意しつつ、特色・形成過程などを考察する。また、中国の伝統演劇の形成や流通には、食文化のそれと一定程度の類似性が見出せるので、対比的に取り上げたい。

**科目目的**

本講義の目的は、伝統演劇への検討を通じて、中国の伝統文化・地域文化とその特色への理解を深めることにある。

**到達目標**

本講義では以下の2点を到達目標とする。

- (1) 中国伝統演劇の表現的特色や形成過程を理解し、近世における中国通俗文学史を読み解くための基礎的な知識を獲得する。
- (2) 中国の文化が地域によって大きく異なることを理解し、地域分化の特色や形成過程、中央と地方との関係など、中国の文化・社会を考える視座を身につける。

**授業計画と内容**

1. 導入、京劇のしくみ1
2. 京劇のしくみ2
3. 京劇のしくみ3
4. 京劇の形成と北京料理
5. 崑曲の特色
6. 崑曲と蘇州
7. 越劇と上海
8. 陝西・山西と秦腔・梆子劇
9. 陝西・山西の地域性
10. 川劇の音楽と表現
11. 清代四川と移民
12. 台湾の布袋戯と霹靂布袋戯
13. 中国の伝統楽譜、工尺譜を読む
14. 授業の総括

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	70%	講義内容の理解度に基づく。
レポート	0%	
平常点	30%	授業の出席・参加状況に基づく。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは指定せず、資料を配布する。参考文献については授業内で紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

中国語の資料を用いることもありますが、中国語未習者であっても履修に問題ありません。

### 参考URL

### 備考

科目名: 中国文学講義(1)B

担当教員: 千田 大介

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 火2

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-LT3-E402

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:14 更新者: XEC301

更新日時: 2023-01-08 15:42:48

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国古典歴史小説研究

本講義では、中国の明清小説のうち、『三国志演義』に代表される歴史物語を扱った小説、いわゆる「講史小説」について、物語の形成を促した社会的環境、戯曲・芸能など他の通俗メディアとの関係、通俗小説の成熟といった視点から検討する。まずはじめに宋元代の芸能・演劇を通じて歴史物語が育まれた過程を概述し、その上で、さまざまな時代を扱った小説を取り上げ、物語内容や形成過程などについて個別に解説していく。近現代における歴史小説の受容や、それらを扱ったさまざまなメディア作品についても、あわせて取り上げたい。

**科目目的**

本講義の目的は、中国古典小説への検討を通じて、中国の伝統文学や通俗文学、さらにはそれらの背景にある文化的背景への理解を涵養することにある。

**到達目標**

本講義では以下の2点を到達目標とする。

- (1) 中国古典歴史小説の諸相に触れ、中国通俗文学史を理解するための基礎的な知識を獲得する。
- (2) (1)を通じて、中国の明清通俗小説の研究手法や研究するための視座を理解する。

**授業計画と内容**

1. 導入、宋代の芸能と元雑劇
2. 『三国志平話』と三国志ものの雑劇
3. 『三国志演義』の形成と改編
4. 宋元代の芸能と『残唐五代史演義伝』
5. 隋唐ものの雑劇と『大唐秦王詞話』
6. 隋唐もの小説の諸相
7. 薛仁貴の物語
8. 『大宋中興通俗演義』と『説岳全伝』
9. 楊家将の物語
10. 清代の演劇と薛家将の小説・物語
11. 清代中期の英雄伝奇小説
12. 現代中国の『三国志演義』と映像作品
13. 現代中華圏の歴史ドラマ
14. 授業の総括と最終課題

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の授業で紹介された資料を閲覧し、また課題の提出を求められた時は授業内容を復習して課題を作成する。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	70% 講義内容の理解度に基づく。
レポート	0%
平常点	30% 授業の出席・参加状況に基づく。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは用いず、資料を配布する。参考資料については教場で紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

中国語の資料を用いることもありますが、中国語未習者であっても履修に問題ありません。

### 参考URL

### 備考

科目名： 中国文学講義(2)A

担当教員： 明田川 聡士

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-LT3-E403

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:14 更新者： AD1406

更新日時： 2023-01-09 11:26:06

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この授業では、中国語圏文学の一角である台湾文学について学びます。日本統治期の日本語文学から、現在の中国語文学まで、20世紀から21世紀にかけての台湾文学の代表的作家とその代表作を取り上げます。毎回の授業では、前半に各回テーマに関する事項について教員が解説し、後半は受講生全員で作品内容について議論していきます。そのため、授業当日までに作品に目を通しておくことが【必須】です。作品のコピーは前週までに配布します。講読作品には、日本語原文（旧仮名遣いや旧字体の場合もあり）、あるいは中国語原文の日本語訳を使います。講義終了時にはレスポンスに作品の概要と所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。なお、授業内では必要に応じて映画やドキュメンタリーなどの映像資料も使用します。昨今では、親日という表現でくくられがちな台湾ですが、表層的な理解に留まらないよう文学作品を精読することで多面的に深く学んでいきます。

**科目目的**

台湾文学の文学史的展開をたどると同時に、作家が誕生し、作品が創作された背景に垣間見える台湾・中国・日本を通じた東アジアでの歴史的・社会的関係についての理解も深めることを目的とします。教員の講義をもとに、受講生全員で作品の背景を意識しながら行間を読み解き、討論し、中国語圏社会との文化交流の発展に寄与できる人材の育成を目指します。

**到達目標**

- 1、台湾文学の文学史的展開を理解できるようになる。
- 2、日本語文学と中国語文学の表現内容について作品を読み込んで理解できるようになる。
- 3、文学作品の講読を通して、東アジアの歴史的・社会的関係も理解できるようになる。

**授業計画と内容**

- ①ガイダンス：台湾社会のクレオール性
- ②漢詩文の退潮と中国語白話小説の隆盛：『全台詩』と頼和
- ③日本人の見た植民地下台湾：佐藤春夫
- ④日本語文学の脈わい：楊逵
- ⑤戦争と台湾人作家：王昶雄
- ⑥白色テロ下での知識人：呂赫若
- ⑦モダニズム文学の始まり：白先勇
- ⑧郷土文学：黄春明
- ⑨民主化後の台湾文学：朱天心
- ⑩現代詩：余光中
- ⑪原住民文学：トパス・タナピマ
- ⑫台湾馬華（マレーシア華人）文学：黄錦樹
- ⑬セクシュアルマイノリティ文学：阮慶岳
- ⑭授業の総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

「事前学修」では当日の授業で扱う作品に【必ず】目を通し、「事後学修」ではレスポンスに作品の概要と所感を記し、授業内で紹介した参考文献を探して読み込むようにして下さい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	1、課題への指示を正確にとらえて作成していること。 2、提出期限内に、決められた様式で提出していること。 3、論述内容に主体性が表現できていること。
平常点	15%	1、事前学修にしっかり取り組んでいること。 2、質問や応答などが適宜なされていること。
その他	15%	1、事後学修として、レスポンスに作品の概要と所感が規定の文字数で記されていること。

### 成績評価の方法・基準(備考)

レポートの課題内容については、ガイダンスおよび授業の中で説明します。

配点については下記の通りです。

期末レポート70% (100点を70点満点に換算します)

- ・論述対象の選択は適切か 5点
- ・タイトルの設定は適切か 15点
- ・レポートとしての体裁を守っているか（要件を満たしているか、ページ脚注や文末脚注、参考文献、ページ番号があるか）15点
- ・引用の仕方が適切か（剽窃は厳禁） 15点
- ・主体的に問題意識をもっているか。論理的な記述がなされているか（論理の飛躍、説明不足、事実の誤認には注意） 50点
- ・発展的な期待が持てるか（ゼミ報告や卒業論文などへの展開） 追加点

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

メールでも随時、質問を受け付けています。

aketagawa@dokkyo.ac.jp

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室中での授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

年間を通して一回は講義最終回（中国文学講義2Aあるいは同Bでの最終回）で作家とのオンライン座談を予定しています。座談は中国語で行います。通訳は特につけません。登壇ゲストについては今後調整しますが、いずれにしても事前に当該作家の著作について読み込んでおくことが必須です。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

クリッカーやmanabaのアンケート機能を使い、受講生の反応を把握しながら授業を進めていきます。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト：

※ガイダンス時にテキストのコピーを配布します。

参考書：

- ・呉濁流『アジアの孤児』岩波書店、2022年
- ・陳芳明『台湾新文学史（上・下）』東方書店、2015年
- ・山口守編『講座 台湾文学』国書刊行会、2003年

ほかの書籍については、授業内で適宜紹介します。

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

以下は国会図書館ホームページへのリンクです。  
レポート執筆時に適宜利用して下さい。

1、台湾の雑誌記事・論文の探し方  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-146.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-146.php)

2、1945年以前に台湾で発行された日本語新聞  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-88.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-88.php)

3、中国（香港・マカオ）の雑誌記事・論文の探し方  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-38.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-38.php)

4、台湾の文学について調べる  
<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/theme-asia-139.html>

## 備考

---

科目名： 中国文学講義(2)B

担当教員： 明田川 聡士

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-LT3-E404

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:14 更新者： AD1406

更新日時： 2023-01-09 11:27:18

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この授業では前期に引き続き、中国語圏文学の一角である台湾文学について学びます。後期では戦後台湾文学の中から「周縁を描いた／周縁から描いた」作品を取り上げます。毎回の授業では、前半に各回で取り上げる作家や作品に関する事項を教員および担当者が解説し、後半は受講生全員で作品内容について議論していきます。そのため、授業当日までに作品に目を通しておくことが【必須】です。作品のコピーは前週までに配布します。講読作品には、邦訳がない場合を除き、中国語原文の日本語訳を使います。講義終了時にはレスポンスに作品の概要と所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。なお、授業内では必要に応じて映画やドキュメンタリーなどの映像資料も使用します。昨今では、親日という表現でくぐられがちな台湾ですが、表層的な理解に留まらないよう文学作品を精読することで多面的に深く学んでいきます。

**科目目的**

戦後台湾文学における「周縁を描いた／周縁から描いた」作品を読み込むことで、中国性(Chineseness)と台湾性(Taiwanese-ness)の関係、ポストコロニアリズムやジェンダーの問題などへの理解も深めることを目的とします。教員の講義をもとに、受講生全員で作品の背景を意識しながら行間を読み解き、討論し、中国語圏社会との文化交流の発展に寄与できる人材の育成を目指します。

**到達目標**

- 1、台湾人作家が周縁をどのように描いたのか、あるいは周縁からどのように描いたのか、理解できるようになる。
- 2、中国性(Chineseness)と台湾性(Taiwanese-ness)の関係を作品を読み込んで理解できるようになる。
- 3、文学作品の講読を通して、ポストコロニアリズムやジェンダーの問題も理解できるようになる。

**授業計画と内容**

- ①ガイダンス：台湾文学における「周縁」の意味
- ②黄靈芝の作品を読む「董さん」
- ③黄靈芝の作品を読む「紫陽花」
- ④黄靈芝の作品を読む「蟹」
- ⑤白先勇の作品を読む「最後の夜」
- ⑥白先勇の作品を読む「冬の夜」
- ⑦白先勇の作品を読む「満点に輝く星」
- ⑧陳映真の作品を読む「夜行貨物列車」
- ⑨陳映真の作品を読む「鈴璫花」(すずのはな)
- ⑩陳映真の作品を読む「忠孝公園」
- ⑪李昂の作品を読む「セクシードール」
- ⑫李昂の作品を読む「花嫁の死化粧」
- ⑬李昂の作品を読む「国宴」
- ⑭授業の総括

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

「事前学修」では当日の授業で扱う作品に【必ず】目を通し、「事後学修」ではレスポンスに作品の概要と所感を記し、授業内で紹介した参考文献を探して読み込むようにして下さい。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。



## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	1、課題への指示を正確にとらえて作成していること。 2、提出期限内に、決められた様式で提出していること。 3、論述内容に主体性が表現できていること。
平常点	15%	1、事前学修にしっかり取り組んでいること。 2、質問や応答などが適宜なされていること。
その他	15%	1、事後学修として、レスポンスに作品の概要と所感が規定の文字数で記されていること。

## 成績評価の方法・基準(備考)

レポートの課題内容については、ガイダンスおよび授業の中で説明します。

配点については下記の通りです。

期末レポート70% (100点を70点満点に換算します)

- ・ 論述対象の選択は適切か 5点
- ・ タイトルの設定は適切か 15点
- ・ レポートとしての体裁を守っているか (要件を満たしているか、ページ脚注や文末脚注、参考文献、ページ番号があるか) 15点
- ・ 引用の仕方が適切か (剽窃は厳禁) 15点
- ・ 主体的に問題意識をもっているか。論理的な記述がなされているか (論理の飛躍、説明不足、事実の誤認には注意) 50点
- ・ 発展的な期待が持てるか (ゼミ報告や卒業論文などへの展開) 追加点

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

メールでも随時、質問を受け付けています。

aketagawa@dokkyo.ac.jp

## アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

年間を通して一回は講義最終回 (中国文学講義2Aあるいは同Bでの最終回) で作家とのオンライン座談を予定しています。座談は中国語で行います。通訳は特につけません。登壇ゲストについては今後調整しますが、いずれにしても事前に当該作家の著作について読み込んでおくことが必須です。

## 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

クリッカーやmanabaのアンケート機能を使い、受講生の反応を把握しながら授業を進めていきます。

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト:

※ガイダンス時にテキストのコピーを配布します。

参考書：

- ・陳芳明『台湾新文学史（上・下）』東方書店、2015年
- ・中島利郎ほか編『台湾近現代文学史』東方書店、2014年
- ・山口守編『講座 台湾文学』国書刊行会、2003年

ほかの書籍については、授業内で適宜紹介します。

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

以下は国会図書館ホームページへのリンクです。  
レポート執筆時に適宜利用して下さい。

- 1、台湾の雑誌記事・論文の探し方  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-146.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-146.php)
- 2、1945年以前に台湾で発行された日本語新聞  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-88.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-88.php)
- 3、中国（香港・マカオ）の雑誌記事・論文の探し方  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-38.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-38.php)
- 4、台湾の文学について調べる  
<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/theme-asia-139.html>

## 備考

---

科目名: 中国語学講義(1)A

担当教員: 遠藤 雅裕

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-LG3-E405

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:14 更新者: AA9706

更新日時: 2022-12-08 10:14:04

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国語圏(中国・香港・台湾など)では、標準中国語のみが使用されているわけではなく、実際は非常に多様な言語がもちいられている。

本講義では、漢諸語(標準中国語(普通話)および中国語方言)について、音韻・語彙・文法等の特色および地理的分布を中心にあつかう。まず、漢諸語の概況を紹介し、その後、国際音声字母(IPA)や伝統的な音韻学の枠組みなど、漢諸語を理解する際に不可欠である知識・技能を実習を交えつつ学ぶ。そのうえで、音韻史との関連で標準中国語の基礎方言である現代の官話方言を確認する。その後、香港・広東省の主要言語である広東語について、標準中国語と対照させながら、その音韻・語彙・文法の各側面について紹介する。広東語をめぐる社会・政治的状況や非漢語(少数民族語等)にも適宜ふれる予定である。

**科目目的**

東アジア地域の主要言語群である漢諸語内部の音韻・語彙・文法面などの多様性を理解する。

**到達目標**

- (1) 漢諸語理解のための基礎知識(IPA・音韻学の概要・文法用語等)を身につける。
- (2) 漢諸語のうち、官話方言の多様性と、粵語の音韻・語彙・文法について標準中国語との相違点を理解する。

**授業計画と内容**

- |      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                            |
| 第2回  | 漢諸語の概要                           |
| 第3回  | 漢諸語の成立仮説                         |
| 第4回  | 中国の「標準語」と「方言」(近現代中国における標準語の制定過程) |
| 第5回  | 音声学(1)(IPAの解説と訓練:調音器官・子音)        |
| 第6回  | 音声学(2)(IPAの解説と訓練:母音)             |
| 第7回  | 音韻学(中古音(『切韻』音系)解説・中古音と北京官話)      |
| 第8回  | 官話方言の概要および膠遼官話について/粵閩客語の包括的な特徴   |
| 第9回  | 粵語(広東語)の概要:分布と音韻的特徴              |
| 第10回 | 粵語(広東語)音韻(つづき)と語彙                |
| 第11回 | 粵語(広東語)文法(名詞句と動詞句)               |
| 第12回 | 粵語(広東語)文法(疑問文・アスペクト標識)           |
| 第13回 | 粵語(広東語)文法(動補構造・助動詞)              |
| 第14回 | 粵語(広東語)文法(受動・使役・処置文など)と総括        |

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 中間試験 | 0%                      |
| 期末試験 | 0%                      |
| レポート | 50% 官話と粵語の相異の把握度を基準とする。 |

平常点 50% 課題の提出状況と内容で判断する。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

状況に応じて「レポート」を「期末試験」に変更するなど、評価方法を若干変更する可能性がある。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

ウェブ上の公開されているリソースの活用をする。たとえば、東京外国語大学言語モジュールや台湾の客家委員会のサイトを利用する。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

授業では教員作成の資料を配布する。また参考書として下記のものを推薦する。その他の参考文献は教室で適宜指示する。  
S.R. ラムゼイ著『中国の諸言語－歴史と現況－』大修館書店  
西田龍雄著『東アジア諸言語の研究 I』京都大学学術出版会  
ウェブサイトについてはmanabaなどで紹介する予定。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- (1) 本講義では主として繁体字を用います。
- (2) 授業計画は進捗状況などによって多少の変更をおこなう可能性があります。
- (3) 本講義は語学の授業ではありませんので、広東語等対象言語の語学的訓練はおこないません。

### 参考URL

### 備考

科目名: 中国語学講義(1)B

担当教員: 遠藤 雅裕

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-LG3-E406

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:15 更新者: AA9706

更新日時: 2022-12-08 10:16:44

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国語圏(中国・香港・台湾など)では、標準中国語のみが使用されているわけではなく、実際は非常に多様な言語がもちいられている。

本講義では、春学期に学習した知識・内容をふまえ、漢諸語(標準中国語および中国語方言)のうち、台湾で使用されている土着漢語である台湾閩南語(台湾語)および客家語(特に台湾海陸客家語)の音韻・語彙・文法の各側面について解説を行い、これらの言語に対する理解を深める。さらに、これらの言語をめぐる社会・政治的状況にも、適宜ふれる予定である。

**科目目的**

東アジア地域の主要言語である漢諸語内部の音韻・語彙・文法面などの多様性を理解する。

**到達目標**

台湾閩南語および海陸客家語の音韻・語彙・文法について、特に標準中国語との相違点を把握する。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンスと春学期の復習
- 第2回 閩語の概要: 分布と音韻
- 第3回 台湾閩南語: 音韻
- 第4回 台湾閩南語: 語彙
- 第5回 台湾閩南語: 文法(代詞・名詞句・動詞句)
- 第6回 台湾閩南語: 文法(疑問文・アスペクト)
- 第7回 台湾閩南語: 文法(動補構造・比較文・処置文・使役文など)および総括
- 第8回 客家語の概要
- 第9回 客家語: 音韻
- 第10回 海陸客家語: 語彙
- 第11回 海陸客家語: 文法(代詞・名詞句)
- 第12回 海陸客家語: 文法(動詞句)
- 第13回 海陸客家語: 文法(アスペクト・動補構造)
- 第14回 海陸客家語: 文法(比較文・処置文・使役文など)および総括

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 50% 台湾閩南語・客家語と官話(標準中国語)との相違の理解度を根拠とする。
- 平常点 50% 課題の提出状況と内容で判断する。
- その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

状況に応じて「レポート」を「期末試験」に変更するなど、評価方法を若干変更する可能性がある。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

ウェブ上の公開されているリソースの活用をする。たとえば、東京外国語大学言語モジュールや台湾の客家委員会のサイトを利用する。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

授業では教員作成の資料を配布する。また参考書として下記のものを推薦する。その他の参考文献は教室で適宜指示する。  
S.R. ラムゼイ著『中国の諸言語－歴史と現況－』大修館書店  
西田龍雄著『東アジア諸言語の研究 I』京都大学学術出版会

### オフィスアワー

### その他特記事項

- (1) 本講義では主として繁体字を用います。
- (2) 授業計画は進捗状況などによって多少の変更をおこなう可能性があります。
- (3) 本講義は語学の授業ではありませんので、台湾閩南語や客家語などの語学的訓練はおこないません。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中国語学講義(2)A****担当教員： 荒木 典子**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 金3

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-LG3-E407

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:15 更新者：AD1407

更新日時：2023-01-04 12:48:33

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では中国語（漢語）の歴史の変遷を学びます。特に近代漢語と呼ばれるおよそ10世紀から19世紀末までの漢語の語彙、語法、音韻における変化とその研究方法を、歴史の流れに沿ってみていきます。

様々な方言や少数民族の言語がある中で、多くの人を楽しませた「中国文学」が育まれるには、多くの人が「読める」言語があったはずですが、特に印刷技術の発展した明、清代を中心に発展した「白話小説」（口頭語に近い文体で書かれた小説）は、近代漢語のカテゴリの中で研究されてきました。この授業を終える頃には、現代中国語の知識だけでは読み解くことのできない文学作品が少しでも読めるようになっているでしょう。

**科目目的**

漢語口頭語の歴史を研究する準備段階として、口頭語で書かれた文献を時代順に紹介する。語り物、戯曲、語録など分野は多岐にわたる。書き言葉と異なる話し言葉ならではの特徴、意義、役割を考える。

**到達目標**

普通話よりも少し古い（数百年前）の文献が読めるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢語史の区分
- 第3回 なぜ近代漢語を研究するのか
- 第4回 近代漢語研究の現状
- 第5回 時代ごとの代表的な資料
- 第6回 唐・五代の資料
- 第7回 宋代の資料 前編
- 第8回 宋代の資料 後編
- 第9回 元代の資料 前編
- 第10回 元代の資料 後編
- 第11回 明代の資料 前編
- 第12回 明代の資料 後編
- 第13回 清代の資料
- 第14回 まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業中・授業後に提示される文献や資料にアクセスしてください

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	70%	学期末に理解度を確かめる試験を行う。
レポート	0%	なし
平常点	30%	毎回の授業後の課題。
その他	0%	出席。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

資料 (蔣紹愚2017『近代漢語研究概要』をもとに作成) を配布。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



**科目名： 中国語学講義(2)B****担当教員： 荒木 典子**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 金3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-LG3-E408

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:15 更新者：AD1407

更新日時：2023-01-04 12:59:48

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では中国語（漢語）の歴史の変遷を学びます。特に近代漢語と呼ばれるおよそ10世紀から19世紀末までの漢語の語彙、語法、音韻における変化とその研究方法を、歴史の流れに沿ってみていきます。

様々な方言や少数民族の言語がある中で、多くの人を楽しませた「中国文学」が育まれるには、多くの人が「読める」言語があったはず。

特に印刷技術の発展した明、清代を中心に発展した「白話小説」（口頭語に近い文体で書かれた小説）は、近代漢語のカテゴリの中で研究されてきました。

この授業では、実際に白話で書かれた文献、白話が使用されている文献に触れ、現代語との違い、書き言葉とは異なる白話の特徴や役割を学びます。

**科目目的**

漢語の時間的、空間的広がりを知る。漢語語法・語彙・音韻の歴史の変遷を知り、現代中国語（普通話）に至るまでの過程を知る。

**到達目標**

普通話よりも少し古い（数百年前）の文献が読めるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 20世紀初：『離婚』
- 第3回 清代：『兒女英雄伝』
- 第4回 清代：『品花宝鑑』
- 第5回 清代：『紅樓夢』
- 第6回 明代：『金瓶梅』
- 第7回 明代：『老乞大』
- 第8回 元代：『孝経直解』
- 第9回 元代：『漢宮秋』
- 第10回 宋・元代：『大唐三蔵取経詩話』
- 第11回 宋代：『朱子語類』
- 第12回 宋代：『三朝北盟会編』
- 第13回 五代：『祖堂集』
- 第14回 まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

担当講師の解説を聞きながら実際に文献を読んでいます。全文を日本語訳しておく必要はありませんが、事前に資料に目を通し、大まかな内容を把握しておいてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	70%	学期末に理解度をはかる試験をします。
レポート	0%	なし。
平常点	30%	毎回課題を出します。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

資料 (太田辰夫1957『中国歴代口語文』のコピー) を配布。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中国文化講義(1)A****担当教員： 川野 明正**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 金2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-GC3-E409

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:15 更新者：AB9682

更新日時：2023-01-08 16:15:33

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「アジアの〈狛犬〉論」ともいべき講義科目です。魔除けの獅子像の展開をアジア全域に探ります。講義の主題上、中国での獅子像の展開が主軸ですが、オリエント・インドから東アジア・日本へと、ライオン・獅子像が狛犬として日本で成立するまでの文化的伝播を追い、それと同時に東シナ海・南シナ海文化圏での石彫りの犬像・獅子像も追い、ヴェトナム北部から沖縄・九州を含めた獅子像の比較文化論を展開していきます。

日本の狛犬と似た魔除けのライオン・獅子像は、アジア各地に共通する文化表象といえ、それは宗教的な差違をも越え、アジア親睦のアイコンともいべき親しみささえもっています。アジアを多様性の相の下に理解することの一助として、獅子像の展開を論じていきます。

**科目目的**

中国語圏の信仰からみた中国人（華人含む）の精神的内実のあらましを理解する。

**到達目標**

東アジアを中心として、日本も含む民間信仰上の諸観念の関係性について野会する。

**授業計画と内容**

- 第1回. レクチャー
- 第2回. オリエント・インドの獅子像と獅子座
- 第3回. 中国の獅子系霊獣の系譜—後漢・魏晋南北朝南朝の陵墓獅子の系譜
- 第4回. 魏晋南北朝の仏教的獅子像の受容—ガンダーラから雲崗石窟へ
- 第5回. 唐代陵墓獅子の展開
- 第6回. 東南アジアのシンハーボロブドゥール遺跡・アンコール遺跡・タイ・ミャンマー
- 第7回. 東南アジアの中国石獅
- 第8回. 中国石獅の地方類型(1)—中国北部(陝西省の「獅子狗」など)
- 第9回. 中国石獅の地方類型(2)—中国南部(浙江・福建・広東各省の獅子像)
- 第10回. 金門島の石獅爺と風獅爺
- 第11回. 広東南部雷州半島の「石狗」とヴェトナムの「狗石」
- 第12回. 沖縄の村落シーサーと風水説
- 第13回. 日本の「狛犬」とその歴史
- 第14回. 宋風獅子・肥前狛犬と東シナ海文化圏

※以上はおおよその目安であり、授業であつかう予定のトピックをあげたものである。授業の進度や履修者の関心によって、講義の進め方を変更する場合もありうる。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	70%	講義全体の理解度確認テストを実施。
レポート	0%	
平常点	30%	理解度確認テストを講義での区切りの回で行う(15%)。 対面授業の場合、出席確認をとる(15%) 【重要注意事項!】授業の際に出席をとることがあるが、出席調査に一度も出席記録がない場合は成績評価の対象外となる。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

マナバの活用

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

<テキスト>  
特に指定しない。マナバ上でプリントを配布する。  
<参考文献>  
川野明正(監修)・ミノシマタカコ(著)『狛犬さんぽ』グラフィック社、2020年  
川野明正(監修)『東京周辺 神社仏閣どうぶつ案内 神使・眷属・ゆかりのいきものを巡る』メイツユニバーサルコンテンツ、2019年  
上杉千郷(編)『狛犬事典』戎光祥出版、2001年  
上杉千郷(著)『日本全国獅子狛犬ものがたり』戎光祥出版、2008年

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



科目名: 中国文化講義(1)B

担当教員: 川野 明正

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-GC3-E410

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:15 更新者: AB9682

更新日時: 2023-01-08 16:12:32

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では「中国の民間信仰」をテーマとし、「神」・「祖先」・「鬼」(鬼怪)・「精」(精怪)をキーワードに民間信仰上の民俗観念について概観し、中国人の冥界観のありかたを探究していきます。具体的には、「霊的な毒物」の信仰ともいうべき「蠱毒」信仰や、脱魂的な生霊ともいうべき「鬼人」信仰や、恋の惚れ薬である「恋薬」の伝承、天上の犬精である「天狗」(てんのいぬ)、人間にとり憑く霊的な虫類である「蠱毒」(こどく)、異民族の鬼人イメージの変遷などを取り上げ、中国人の民間信仰のありかたのなかでの位置づけ、とりわけ冥界観の全体像のなかでの位置づけを試みます。中国南部の漢民族・非漢民族に広く伝わる呪術的観念の実態に迫り、中国南部の人々の心性のありかたを垣間見てみたいと思います。

**科目目的**

中国語圏の精神世界について、民俗的側面から理解する。

**到達目標**

日本を含む東アジアの民間信仰上の心性について、一定の認識と理解を得る。

**授業計画と内容**

- 第1回. 中国の地理と気候と文化的多様性
- 第2回. 食文化からみた中国文化の多様性
- 第3回. 民族からみた中国文化の多様性
- 第4回. 総論:中国人の冥界観—「神」と「鬼」「精」との動的な関係
- 第5回. 精怪論(1)—山魃について
- 第6回. 精怪論(2)—五通神について
- 第7回. 精怪論(3)—現代の五通神伝承
- 第8回. 精怪論(4)—厄災・不妊の原因としての「天狗」
- 第9回. 精怪論(5)—子授けの神「張仙」と天狗祓い
- 第10回. 蠱毒論(1)—魏晋南北朝時代と宋代の異民族イメージと「蠱毒」
- 第11回. 蠱毒論(2)—明・清代の異民族イメージと「蠱毒」
- 第12回. 蠱毒論(3)—恋愛呪術における蠱毒と異民族イメージ
- 第13回. 鬼怪論(1)—中国諸民族の生霊信仰
- 第14回. 鬼怪論(2)—「鬼」としての異民族イメージ

※以上はおおよその目安であり、授業であつかう予定のトピックをあげたものである。授業の進度や履修者の関心によって、講義の進め方を変更する場合もありうる。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	80%	授業内容に関するレポートを課して評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	授業のリアクション(10%)。 対面授業の場合、出席確認をとる(10%)。 【重要注意事項!】授業の際に出席をとることがあるが、出席調査に一度も出席記録がない場合は成績評価の対象外となる。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

マナバの活用

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

中国語通訳を中国国内で経験している。

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

<テキスト>  
特に指定しない。マナバ上で講義レジュメを配布する。  
<参考文献>  
川野明正『中国の〈憑きもの〉—華南地方の蠱毒と呪術的伝承』風響社, 2005年  
川野明正『神像呪符〈甲馬子〉集成—中国雲南省漢族・白族民間信仰誌』東方出版, 2005年  
渡邊欣雄『漢民族の宗教—社会人類学的研究』第一書房, 1991年  
文彦生(編)・鈴木 博(訳)『鬼の話(上・下)』青土社, 1997年

## オフィスアワー

## その他特記事項

魍魎魍魎が跳梁跋扈する授業ですが、何ら恐れる必要はありません。

## 参考URL

## 備考





**科目名： 中国文化講義(2)A****担当教員： 陸 偉榮**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 金3

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-GC3-E411

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:15 更新者：AB6301

更新日時：2023-01-07 07:10:18

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- ✓ 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

中国美術の歴史は長く、日本や韓国など周辺国の美術にも多大な影響を及ぼしました。特に南北朝時代以降の仏教美術や絵画、陶磁器、書などは日本の飛鳥時代から江戸時代までの美術の起源といえます。授業では作品をもとに各時代の歴史と作品を通してそれらの特徴を理解しながら、日本のそれと比較も行ない、その差異についても考えてみたいのです。

**科目目的**

本講義は、前期では古典中国美術を、作品を中心に考え、近代までの中国美術の流れはどのように展開してきたかを理解するためのものです。本講義で学ぶのは、現代中国美術の基礎知識で、アプローチとしては具体的な美術作品を中心にできるだけ分かりやすく解説していきます。

**到達目標**

授業スライドを通して東洋・中国美術の古今の名作群を鑑賞し、その素晴らしさを理解できるようになります。また、東洋・中国美術鑑賞のための基礎知識を習得し、さまざまな美術展・芸術展での鑑賞力・作品理解力アップを目指し、学習者なりの見識が説明できるようになります。

**授業計画と内容**

- 第1回 (導入・中国絵画の見方、兵馬俑、「洛神賦」)
- 第2回 書の流れ、唐代絵画、「唐宮仕女図」、「韓熙載夜宴図」
- 第3回 北宋の絵画「谿山行旅図」「早春図」「清明上河図」、
- 第4回 (彫刻) 仏教美術、(工芸) 宋の磁器
- 第5回 南宋時代の様式(馬遠と夏珪)、元代絵画、趙孟頫「鵲華秋色図」、元末四大家、黄公望の「富春山居」
- 第6回 明代絵画、戴進、沈周、文徵明、董其昌と「南北絵画論」、清代絵画
- 第7回 郎世寧「百駿図」、洋風画
- 第8回 揚州八怪から清末へ、美術の商業化
- 第9回 海上派の絵画
- 第10回 五四運動と美術革命
- 第11回 近代の洋画運動
- 第12回 魯迅と版画、近代の漫画
- 第13回 日中戦争時の美術、延安の美術
- 第14回 まとめ、試験

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

時代背景を把握する必要があるため、各自で中国歴史関係の本を読んでほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 100% 期末試験。指定教科書のみ持ち込み可能。

穴埋め60%、論述40%  
就職などの理由で欠席の場合、関係資料を提示してください。  
それ以外評価の対象外となります。

レポート 0%  
平常点 0%  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

備考  
病気や就職などの理由で欠席の場合、関係資料を提示してください。それ以外評価の対象外となります。  
正当な理由がなく3回以上の欠席・早退は一回付5点減点します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

科目性質上「講義」となっております。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト 東西美術研究会編『20世紀の中国美術』 東西美術研究会 2022年  
(中央大学生協扱う)  
その他、初回の授業中で指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

中国文化講義(2) Bと連動している科目なので併せて履修することを勧めます。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 中国文化講義(2)B****担当教員： 陸 偉榮**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 金3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-GC3-E412

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:16 更新者：AB6301

更新日時：2023-01-07 07:14:49

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- ✓ 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義は、中国近現代社会において政治や経済・社会情勢とのかかわりの中で、中国美術・造形藝術がどのように発展・変貌してきたかを、代表的な実作品に即して理解することを目標にしています。また、それを通して現代中国文化を理解する枠組みも身につけられるような狙いをも内包しています。

時代順にアヘン戦争から辛亥革命・五四運動、一九二〇・三〇年代、日中戦争・内戦期、新中国、一九九〇年代と区切り、それぞれの特徴を考えていく。講述と画像で授業を進めるが、多くの作品を使って分かりやすく、具体的・視覚的な講義を行ってきたいと思います。

**科目目的**

本講義は、近代から現代までの中国美術の流れはどのように展開してきたかを理解するためのものです。本講義で学ぶのは、現代中国美術の基礎知識で、アプローチとしては具体的な美術作品を中心にできるだけ分かりやすく解説していきます。

近年になって、中国の現代アートの紹介も比較的活発になっているが、こうした紹介は文革時代以後のものに限られていますし、また近代に始まる歴史解明も不十分と思われる。この講義を通じて、近現代中国の美術や文化への理解も深めることができると考えます。

**到達目標**

スライドや資料を通して東洋・中国美術の古今の名作群を鑑賞し、その素晴らしさを理解できるようになります。また、東洋・中国美術鑑賞のための基礎知識を習得し、さまざまな美術展・芸術展での鑑賞力・作品理解力アップを目指し、学習者なりの見識が説明できるようになります。

**授業計画と内容**

- 第1回 古典中国美術の名作（導入・前期内容の確認）
- 第2回 京津派、嶺南派と近代日本画
- 第3回 豊子愷と竹久夢二① 日中戦争以前の作品
- 第4回 豊子愷と竹久夢二② 日中戦争後の作品
- 第5回 美術家協会、ソ連式の美術教育
- 第6回 伝統絵画と「水墨写真」
- 第7回 新中国の革命歴史画
- 第8回 新年画の展開
- 第9回 文化大革命時代の美術
- 第10回 農民画、転換期の美術
- 第11回 星星美術展、四川リアリズム
- 第12回 85美術運動、転換期の革命歴史画
- 第13回 90年代の中国現代美術、中国の美術オークション
- 第14回 まとめ、試験

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

時代背景を把握する必要があるため、各自で中国歴史関係の本を読んでほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

期末試験。指定教科書のみ持ち込み可能。穴埋め60%、論述40%  
病気や就職などの理由で欠席の場合、関係資料を提示してください。それ以外評価の対象外となります。  
正当な理由がなく3回以上の遅刻・早退は一回付5点減点します。

## 成績評価の方法・基準(備考)

備考  
病気や就職などの理由で欠席の場合、関係資料を提示してください。それ以外評価の対象外となります。  
正当な理由がなく3回以上の遅刻・早退は一回付5点減点します。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

科目性質上「講義」となっております。

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト 東西美術研究会『20世紀の中国』、東西美術研究会、2022年  
(大学生協で扱う)  
その他、初回の授業中で指示します。

## オフィスアワー

## その他特記事項

中国文化講義(2)Aと連動している科目なので併せて履修することを勧めます。

## 参考URL



科目名: 中国文化講義(3)A

担当教員: 麻生 晴一郎

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-GC3-E413

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:16 更新者: XEC314

更新日時: 2023-01-05 13:42:59

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代中国における市民活動の現状と日本からの交流について学んでいきます。前期に開講する本講義「中国文化講義(3)A」は市民活動の前提となる「自由」や「民主」に力点を置き、続く後期の「中国文化講義(3)B」では日本からの交流に力点を置く形で、前期後期を通じての内容となりますが、前期のみ、後期のみでも理解することができるようにします。授業は下記「授業計画と内容」にあるテーマに沿って、まず講義を行い、終盤に「質問の時間」を設けます。「質問の時間」の進め方は、受講者数によって、その場での質疑応答形式にする(下記「授業時間外の学修の内容」における質問・意見)か、下記「授業時間外の学修の内容」で触れているリアクションペーパーでの質問・意見を次の回に答える形式、のいずれかにします。

**科目目的**

デモや規制など、今の中国で起きている社会的な出来事を把握するための、背景となる問題意識を探り、合わせて中国のそうした社会変化に、日本にいる人がいかに関わることができるかを考えていきます。

**到達目標**

今の中国社会に関するさまざまなニュースをなるべく偏りなく見ることができること、中国の社会や人と関わる上で知っておくべきことを身に付けることを、到達目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 「中国への親しみ」と中国報道
- 第2回 現在の中国における言論・集会への規制のとらえ方
- 第3回 1980年代の中国は今とどう違うか?
- 第4回 1990年代におけるフリーの登場
- 第5回 1990年代に進んだ私的領域の自由化とその限界
- 第6回 2000年代における市民意識の台頭
- 第7回 2010年代の規制強化を2000年代の社会から見る
- 第8回 中国独自の価値観とは
- 第9回 中国的価値観から見る「民主」
- 第10回 中国的価値観から見る「和」
- 第11回 中国的価値観から見る「自由」
- 第12回 2010年代における労働運動
- 第13回 中国の市民活動と若者
- 第14回 中国社会における「自由」を日本と比較する

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回リアクションペーパーを提出、もしくは「質問の時間」に意見・質問を述べてもらいます。リアクションペーパーや意見・質問は、日ごろ自分が学習や生活の中で知ったこと、感じたことを講義内容に突き合わせてみることを望みます。そのため授業開始前に、あらかじめ毎回のテーマに関して日ごろ自分が思うことなどを準備しておき、それを講義内容と照らし合わせてみて、自分なりの意見や質問をリアクションペーパー、もしくは「質問の時間」での意見・質問に反映させる、ということを要求します。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	30%	質疑応答形式で行い、意見・質問の内容を評価対象とします。ただし受講者数によって試験方法を修正する可能性があります。
レポート	0%	
平常点	70%	毎回のリアクションペーパー提出もしくは「質問の時間」での意見・質問の内容を評価対象とします。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上、上記の「リアクションペーパー提出もしくは質問の時間での意見・質問」がなされていない場合は成績評価の対象外とします。

## 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

上記「授業の概要」の「質問の時間」で行います。

## アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク

✓ その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

上記「授業の概要」の「質問の時間」で対話形式を試みます。

## 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

✓ はい  
いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

テレビ番組ディレクター・プロデューサーとして中国報道に関わる (1992～2002年)  
フリージャーナリストとして中国報道に関わる (1998年～)

NPO法人「AsiaCommons亜洲市民之道」を主宰し日中市民交流に携わる (2010年～)

## 実務経験に関連する授業内容

中国報道・日中市民交流に携わってきた中での知識・経験を授業に取り入れます。

## テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布します。参考文献は授業中に指示します。

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考





科目名: 中国文化講義(3)B

担当教員: 麻生 晴一郎

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-GC3-E414

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:16 更新者: XEC314

更新日時: 2023-01-05 13:42:34

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代中国における市民活動の現状と日本からの交流について学んでいきます。前期「中国文化講義(3)A」に続く内容ですが、本講義のみでも理解することができるようにします。授業は下記「授業計画と内容」にあるテーマに沿って、まず講義を行い、終盤に「質問の時間」を設けます。「質問の時間」の進め方は、受講者数によって、その場での質疑応答形式にする(下記「授業時間外の学修の内容」における質問・意見)か、下記「授業時間外の学修の内容」で触れているリアクションペーパーでの質問・意見を次の回に答える形式、のいずれかにします。

**科目目的**

デモや規制など、今の中国で起きている社会的な出来事を把握するための、背景となる問題意識を探り、合わせて中国のそうした社会変化に、日本にいる人がいかに関わることができるかを考えていきます。

**到達目標**

今の中国社会に関するさまざまなニュースをなるべく偏りなく見ることができること、中国の社会や人と関わる上で知っておくべきことを身に付けることを、到達目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 中国の中の何かと出会うことに関する講師の体験紹介
- 第2回 市民交流をする上で「中国」という語を見つめ直す
- 第3回 市民交流をする上での歴史問題
- 第4回 中国の都会と田舎における「日本」
- 第5回 「民間交流」とは何か?
- 第6回 中国における市民活動の可能性
- 第7回 中国のNGOの実例 農民の地域社会参加
- 第8回 中国のNGOの実例 公共サービス
- 第9回 中国のNGOの実例 政府と庶民の橋渡し
- 第10回 中国のNGOの実例 多文化共生
- 第11回 中国のNGOの実例 差別問題
- 第12回 中国社会の未来と香港・台湾
- 第13回 中国の市民活動の課題
- 第14回 市民交流の実践

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回リアクションペーパーを提出、もしくは「質問の時間」に意見・質問を述べてもらいます。リアクションペーパーや意見・質問は、日ごろ自分が学習や生活の中で知ったこと、感じたことを講義内容に突き合わせてみることを望みます。そのため授業開始前に、あらかじめ毎回のテーマに関して日ごろ自分が思うことなどを準備しておき、それを講義内容と照らし合わせてみて、自分なりの意見や質問をリアクションペーパー、もしくは「質問の時間」での意見・質問に反映させる、ということを要求します。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	30%	質疑応答形式で行い、意見・質問の内容を評価対象とします。ただし受講者数によって試験方法を修正する可能性があります。
レポート	0%	
平常点	70%	毎回のリアクションペーパー提出もしくは「質問の時間」での意見・質問の内容を評価対象とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上、上記の「リアクションペーパー提出もしくは質問の時間での意見・質問」がなされていない場合は成績評価の対象外とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

上記「授業の概要」の「質問の時間」で行います。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
 ディスカッション、ディベート  
 グループワーク  
 プレゼンテーション  
 実習、フィールドワーク

✓ その他

実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

上記「授業の概要」の「質問の時間」で対話形式を試みます。

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
 タブレット端末  
 その他

✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

✓ はい  
 いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

テレビ番組ディレクター・プロデューサーとして中国報道に関わる (1992～2002年)  
 フリージャーナリストとして中国報道に関わる (1998年～)  
 NPO法人「AsiaCommons 亜洲市民之道」を主宰し日中市民交流に携わる (2010年～)

### 実務経験に関連する授業内容

中国報道・日中市民交流に携わってきた中での知識・経験を授業に取り入れます。

### テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布します。参考文献は授業中に指示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考